

学校評価シート（自己評価）

職員評価まとめ

こまどり幼稚園

1、園の教育目標

「一人ひとりが主役」子どもたちの居場所は、幼稚園である。一人ひとりが成長しようとする心のサポートを何より大切にしていけることを願って保育に取り組む。本園では、教育目標を次のように掲げ、こんな子に育てほしいと日々の保育を進めている。

- 明るい子 笑顔で明るく挨拶のできる子
- 優しい子 友だちを思いやる子
- かしこい子 自分で工夫して遊べる子 お外で元気に遊べる子

2、具体的な目標や計画

評価項目に沿って、自己点検・自己評価を実施することにより、自己のクラス経営を見直し、新たな課題に取り組んでいく。同時に教員の研修会参促進、園内研修を行い、保育の質の向上に努める。

幼児理解に基づいて、保育の再構成をする。(PDCA) (プラン、ドゥー、チェック、アクション)

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)			結果の理由
(1)園の教育目標、教育課程を理解し、それを基に子どもの実態をふまえて保育計画をたてている。	A 9	B 2	C 0	教育目標、教育課程を理解した上で、毎週学年全体で話し合いをして週案をたて、一人ひとりの子どもが成長でき、目標を達成できるようにしている。 子どもに合った楽しい保育ができるようにしている。 難しいことを設定するより楽しさを伝えられる保育活動を考えた。
(2)一人ひとりの子どもをよく理解し、個性や努力は、公平に評価している。	9	2	0	子ども一人ひとりを理解し、言葉がけや援助をし活動が楽しいものになるようにする。 頑張ったことやできたことは褒めて良いところを伸ばしてあげる。記録をとり変化に気付けるようにしている。
(3)子どもの活動がより豊かになるよう、自ら展開をしていけるような場や空間の構成をする。	9	2	0	子どもの興味関心に合わせて、環境を構成するようになっている。保育者から遊びの発信をし子どもの遊びがひろがるようにした。 必要だと思う廃材を用意し、子どもの遊びのイメージがふくらむようにする。
(4)子どものことについて各クラスで話し合い、共通理解をし、各クラスでの成果と課題を報告する。	10	1	0	保育終了後、補助の方、学年の先生と子どもの様子を話し合っている。 そして、対応方法や成長した点などいろいろ話し合っている。次の日から、見直しをしたり、さらに発展させたりできるように生かしている。
(5)幼稚園の状況を踏まえて、中・長期的な教育内容を見直し、これからの社会ニーズに「合う」内容を検討する。	5	6	0	毎年同じやり方ではなく、保育の質の向上を目指して、その年の子ども達の実態や保護者の考えも聞いて行事や教育内容を検討している。親世代の考え方が変わりつつあることを強く感じどういう教育内容がいいのか、試行錯誤している。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A:9 B:2 C:0	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目について見直したり、自己評価をしていくことで自分の保育を振り返ることができた。 ・担任になったクラスの子どもたちの様子をよく理解して、そのクラスに合った保育をできた。 ・自分の目標を大切にしながら保育を改善、見直しをして保育活動ができる余裕が持てた。 ・全体的に子どもの特性を生かしながら集団生活をすすめられた。 ・一人ひとり子どもたちを理解し評価しているが自分の経験不足のため十分ではない。 ・就学に向けて個々の良い所、足りない部分を伸ばしていくことが十分ではない。

A	十分達成されている	C	取り組まれているが、成果が十分でない
B	達成されている	D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育内容 行事	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に追われてしまいがちなのでじっくりと取り組めるようにしたい。 ・集団の一員として生活をする事への異議や意欲が高まるようにする。 ・子どもの苦手なこと難しいと思うことにも挑戦していくようにする。 ・個人差が出る教育内容については配慮や工夫していくようにする。
教師の役割と資 質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れに甘えず向上心を持って取り組んでいく。 ・想定外のことが起こった時のとっさの判断を身に付ける。 ・研修会に参加する。保育者同士で話し合い相互に向上できるようにする。 ・初心を忘れず、子ども達の目線に沿って行動をする。 ・保育者時自身がお手本となるよう行動する。
自己評価と自己 採点	<ul style="list-style-type: none"> ・記録としての保育日誌を通して日々の保育を見直し、反省することで次の保育に生かす。 ・前ばかりを見てきたが、経験を重ねるうちに周りや後ろを振り返るようになってきた。 ・今までと同様、子どもたちとの触れ合いを疎遠にせず熱意を持って保育する。 ・うまくいかないことは反省して、次へ生かせるようにする。 ・引き続き目標が達成できる保育をしていく。
安全対策・安全 点検	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の点検・子ども達の健康チェック、遊び方の把握をしておく。 ・安全点検表をもとに危険な所がないか壊れている所がないか点検する。 ・避難訓練をいろいろな災害をイメージしてしっかり行う。 ・部屋の清掃、整頓をし危険な所がないか確認しておく。
気になる子への 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら生活に参加できるよう主活動を見直す。 ・補助の先生がいてくれると助かる。 ・園全体で気になる子を理解し援助していく。 ・注目して話が聞けるよう言葉だけでなく絵を見せる。・気になる子への理解を深めていく。 ・保護者とよく話し合い相互理解を深める。 ・その子が何を伝えようとしているのか、どんなことに気持ちがうごかされるのか、さまざまな働きかけや関わり方を積極的にしていく。

令和元年度学校評価シート（学校関係者評価）

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切でしたか。
 - ・『一人ひとりが主役』子どもたちの居場所は、幼稚園である。」という教育目標。一本の木を植えれば、花が咲き木の実がなるように「一人ひとりが大事であるという設定は大切です。そして「明るい子・やさしい子・かしこい子」へと教育目標が具体的となり、適切に設定されていました。
 - ・適切でした。(3名)
目標、計画が保護者に見えておらず、研修会園内研修の内容を開示した方がよいと感じました。
2. 評価項目（5項目）の結果については適切でしたか。
 - (1)「子どもに合った楽しい保育活動を工夫している。」ことは、特に先生方が力をいれている様子が感じられます。
 - (2)「子ども一人ひとりを理解し、褒めて良いところを伸ばしていく」ことは、子ども達のやる気を引き出し、素晴らしいことです。
 - (3)環境の構成に関しても先生方の工夫が盛り込まれ、良いものができています。園何をまわらせておいただき、関心しました。
 - (4)学年内で子どもたちの様子を話し合い、共通の理解を持つことは、大切であり先生方の意識も高くなっています。
 - (5)・中、長期的に教育内容を見直し検討することは、計画的に時間を要して行うことですから、今後も続けていくことが大切でしょう。
 - ・保護者の考え方が変わりつつあり、また、無理な難題にも適切に処理していただき、また、毎日の保育者の努力が十分に伝わってくるので、もう少し高評価であってもいいと思います。
3. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果については適切でしたか。
 - ・ 評価項目の達成結果を子ども達の行動に即して振り返り、十分に達成されていました。十分でないと書いている保育者がいるのに結果が「C」ではなく「B」なのは適切ではないと思います。
4. 今後取り組むべき課題は適切に行われていましたか。
 - ・ 今後取り組む劇課題を項目ごとに具体的にあげている為、来年度への課題が分かりやすくなっています。良かった点をさらに伸ばして、一人ひとりの子どもとさらに向き合ってあげてください。
 - ・ 遊具の点検について、砂場のねこの糞についてももう少しきちんと対策をとるべきだと思います。
5. その他何か気づいたこと等ありましたらご意見ください。
 - ・ 教職員一人ひとりが、学校評価の趣旨を理解し、適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子がみられ大変よいと思います。
 - ・ いつも保護者の立場に立って考えてください、意見もきいていただき親しみやすい園になりました。
 - ・ まだ、障害のある子の理解が少ないと思います。同じクラスになった時に、一年間不安をかかえて過ごすより、その保護者（障害のある子）から一言あるとそうったことが少なくなるのかなと思います。

(1)園の教育目標、教育課程を理解し、それを基に子どもの実態をふまえて保育計画をたてている。

- ・学年で話し合い計画をたてている。
- ・教育目標、教育課程をもとに年間指導計画を立て学年で話し合いながら週案を決め保育計画をたてている。
- ・園の教育目標、教育課程を踏まえ週案などの保育計画、クラス作りをしている。
- ・一週間のクラスの様子を見て保育の進め方など考えている。
- ・子ども達の現状、興味のあるものに沿い教育目標・教育課程を達成できる週案をたてている。
- ・明るく元気いっぱい過ごせる子どもたちになるよう指導している。
- ・『明るい子、やさしい子、かしこい子』に沿って週案をたてている。
- ・つねに子どもの願いや目標を持ち取り組んでいる。
- ・朝帰りの挨拶、食事の挨拶、物事のけじめなど大切に実践に結び付けている。最年長を自覚し年下のお友達を気にかけて関わるよう指導する。
- ・工夫して遊べるよう多くの教材を用意した。最後に保育者が一つ加えられると良かったと思う。
- ・遊びの中にもルールがあり、相手の気持ちを考えながら過ごしていけるよう計画を立て実行している。

(2)一人ひとりの子どもをよく理解し、個性や努力は公平に評価している。

- ・一人ひとりにあった支援声掛けをして個人差に応じてきた。たくさん褒めている。
- ・一人ひとりの発達段階に応じた適切な指導、援助に努めている。頑張ったこと、できたことなど褒めてあげ子ども伸ばせるようにしている。
- ・良い所、悪い所、得意なところ、苦手なこと等子ども達の性格を理解したうえで褒めたり、支援してりいる。
- ・できたことを褒めたり、子どものペースに合わせて声をかけることができた。
- ・以前よりできるようになったこと、努力したことを口に出して伝えるようにしている。
- ・一人ひとりの個性を伸ばすように指導しています。
- ・個性を認めいいところは伸ばす。
- ・子どもの自尊心を大切に一人ひとりと向き合っている。
- ・登園時の声かけは必ず行い、同時に体調も視診する。制作物や教材にすべて目を通し、絵画、ひらがな指導の際には、褒めるべきところは褒め、直すべきところは訂正を促す。
- ・子どもを理解し、個性を生かせるように心がけているが、まだ理解ができていないところもある。
- ・ただ見守るだけではなく、子どもと一緒に遊んだり、活動することにより一人ひとりの性格をより理解でいくよう努力していく。

(3)子どもの活動がより豊かになるよう、自ら展開をしていけるような場や空間の構成をする。

- ・子どもが自分で遊びを広げていけるようにしている。
- ・広告紙や画用紙を用意し、作るものを提案してみたり、一緒に作ったりして盛り上げ、遊びを展開している。

- ・子どもの遊びが広がるように物や場所を用意したり、言葉がけをして新たな選択肢が増えるようにしている。

資料 2

- ・導入などに力を入れ、「次もやってみたい」と思うような指導をしている。
- ・朝、ブロックなどを用意しておく。ちらしなど自由につかえるようにしておく。
- ・机やおもちゃなどの配置を気を付けています。
- ・ぬりえやちらしなど、子ども達がやってみたいという気持ちを大切にしている。
- ・個性、友達関係、クラスの特徴などを理解し、見合った活動ができるよう努力している。
- ・子ども達が自分たちで遊びを進めていけるように室内遊具、絵本、玩具など十分に取り揃えておく。
- ・いろいろな教材を使用して活動を展開していけるようにしているが、指導の仕方を工夫してさらに広げる。
- ・自由遊びの時間は、広告や廃材などを自由につかえるようにしたり、遊び方などもなるべく子どもたちに考えさせるようにする。

(4) 子どものことについて各クラスで話し合い、共通理解をし、各クラスでの成果と課題を報告する。

- ・担任、副担任とその子に合った関わり方ができるよう話し合い、関わり方を変えている。
- ・補助の先生とクラスの子どもの情報交換を行ったり、保育方針について話し合ったりしている。保育後も職員室で学年の先生たちと子どもの話などをし、共通理解をしている。
- ・よく話し合うことはできている。さらにもっと各クラスのことを理解し合うことができるようにする。
- ・運動会などを通し、みんなで協力しあうことの楽しさなどを味わうことはできた。
- ・支援の必要な子に対してクラス全員で助け合っていく。
- ・職員で報告を必ずする。
- ・保育後、各クラスの先生と子どもたちの様子を話し保育の反省や良かったことを話し合い保育に生かしている。
- ・情報交換は互いの向上、見直しにもなるので大切にしている。
- ・終礼およびその後の話し合い時に質問を上げ学年全体の問題として意見の交換を行いアドバイスし合い、その後の結果報告を行う。
- ・保育帰後、学年で子どもの様子を話すとともに相談をしアドバイスをもらっている。
- ・例えば運動会の行事のときは、どうすれば良い演技ができるか、速くはしれるか子ども達と一緒に考える時間を作る。

(5) 私立幼稚園協会主催の研修会、県や市の教育研修会に参加する。園内研修に積極的に参加する。

- ・研修に参加している。
- ・園外の研修会に参加することができた。
- ・研修などで学んだことを生かしたり、反省するなど保育の見直し、改善のきっかけになるため機会があるときは参加した。
- ・参加できる研修には、参加した。
- ・参加できるものには、積極的に参加している。
- ・自分のクラスが心配だが、保育がよくなるよう参加している。
- ・場を設けていただき、積極的に参加し学んでいる。
- ・園より要請ある研修会においては、必ず出席を心がけている。
- ・市の研修や新任研修に参加し、多くの講習を受けさせていただいている。

- ・時間の許す限り参加できている。

資料 3

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・自分で遊びを広げられるようないろいろの形を描いた紙を置いて子ども達がハサミで切れるようにしていたらハサミの扱いが上手になった。また、全体に声をかけながら気になる子への支援としてその子に合った声かけをしてみんなと同じように取り組むことができるようになった。
- ・子どもの個性を知り、一人ひとりに合った対応を心がけているが、まだまだ不十分だったところもあったかなと思う。
- ・一年を通して子ども達との関係が深まってきたことで一人ひとりと向き合う時間、寄り添う時間がもてた。そのため達成されたと感じる。
- ・子ども達の会話の中で「楽しい」「できた」等の言葉が保育中に聞こえてくることが多く、達成感や充実感を感じられる様子がみられた。
- ・教育相談を受けて改めて自分のクラスの保育を見直した。クラスの様子、保育を第三者の目から、アドバイスしていただき新たな発見・気づき・反省があり今後の保育に活かすようにする。
- ・一人ひとりの子ども達が笑顔でまた、個性を伸ばせるように工夫して指導ができた。クラスのことは、職員同士で確認でいていた。
- ・良い所は、褒め伸ばした、子ども達自身で物事を考えられるようになった。できない困ったことがあっても自分たちで話し合い友だちと助け合いながら解決する姿が見られるようになった。クラスの一員として活動できるようになり、自分のことだけでなく相手のことを考えられるようになった。
- ・一人ひとりに目が行き届き、子ども達の主体的な活動をサポートしてきた。そのせいか、クラスのまとまりもよく、家族のようなかけがえのない関係を築けた。
- ・運動会やおゆうぎ会など大きな行事を通して協力性や相手の気持ちを考えて行動できるようになった。年長としての自覚をもって自信にもつながっていった。
- ・集団としての活動を通して成長してもらいたかったが、まだまだ足りないことが反省点である。
- ・子ども一人ひとりに対しての保育内容については、日々見返して反省することで、次の保育につなげることができた。

5. 今後と取り組むべき課題

「教育内容・行事」

- ・行事に親しみをもち楽しく参加できるようにする。
- ・行事ごとに制作をしているが導入として行事の由来を子どもたちにしっかり伝えられるようにする。
- ・子どもが持っている力を伸ばす。
- ・集団生活を意識しながらも個性を大切にしていく。
- ・一年の行事を見すえて、事前の準備をしていく。
- ・本番まで気持ちを持っていけるよう指導する。
- ・行事は、このままでよい。
- ・興味関心がもてるように、過去の取り組みも大切にしつつ時代に見合ったこともプラスしていけるようにする。
- ・季節の行事の大切さを知るようにする。
- ・子どもの創造性に任せるだけでなく、声掛けや環境を整えるようにする。

- ・もっと余裕を持って準備をしたり計画を立てる。

資料 4

「教師の役割と資質向上」

- ・教師間でコミュニケーションを取り全体で見えていく。
- ・子ども一人ひとりに寄り添った保育ができるようにする。そのために、発達障害などまだまだ勉強不足なところを学びたい。
- ・何をのばしていきたいのか、どんなクラスにしたいのか具体的に目標を持ってやっていきたい。
- ・子ども一人ひとりに合った援助や言葉のかけ方の工夫。
- ・楽しい幼稚園生活を過ごせるよう子どもたちの様子に気を配り、ふだんの保育を見直し、次に活かせるようにする。
- ・子どもたちが楽しく一日を過ごせるようにまた明日も幼稚園に行きたいと思うような保育をする。
- ・毎日の保育終了後に保育の取り組みなど日誌を通して反省しさらなる向上を目指すようにする。
- ・責任と日々の振り返りを繰り返す。
- ・書く、読む、作る、苦手な子には、ゆっくりとその子に合わせた指導を行う。季節の行事などは由来話理解を深める。
- ・子どもが言葉や態度で発信する情報以外でも心の動きを読みとるようにする。そのために、触れ合ったり距離を置いたりして接する努力をする。
- ・保護者との繋がりを大切にして、子ども達の成長や課題を共通認識していくこと。

「教育環境 遊具・教材」

- ・遊具の使い方をきちんと確認する。
- ・苦手とする遊具へ誘ってみたり、支援する。
- ・子ども達が主体的に遊び、さらに遊びが広がるように環境構成を考えていく。
- ・安全に使えるようにまた、友達とコミュニケーションできる教材をそろえていく。
- ・危険なものははじめに取り除いておく。いろいろな教材に触れ体験できるようにしていく。
- ・子ども達の興味をひくような物をかんがえていく。
- ・ブロックやおままごと等玩具は、各学年の年齢に合わせて選んでいく。
- ・学年に合った玩具・遊具を提供する。
- ・教室内の環境を季節ごとに整備する。遊具・玩具も必要だが、外で体を動かす遊びを進めていく。
- ・教材が楽しいと言えるようなものを提供していく。
- ・子ども達と一緒にどんな遊びをしたいのかを考えながら進めていく。

「食育・給食」

- ・食事のマナーを身に着ける。嫌いなものでも少しずつ食べるようにする。
- ・残っているものがあれば、もう一口たべるようにすすめる。食べることでどうなるかも伝える。
- ・楽しみながら食べられるようにする。好き嫌いをなくす。
- ・食事のマナーとバランスの良い食べ方を知る。
- ・苦手なものを食べるよう促す。できたら、褒めて喜びを持てるようにする。
- ・苦手なものを食べるように声をかけ、興味を持てるようにする。

- ・マナーとバランスの良い食事に感謝して食べるようにする。

資料 5

- ・食事の時間も意識させる。
- ・ただら食べやおしゃべりばかりの食べ方は気を付けるよう指導する。
- ・食べ物が食べられることに感謝することを知る。好き嫌いなく残さず食べるよう指導する。
- ・極端に小食な子どもへの対応を常に考え、どうしたらいいか模索中である。

「気になる子への支援」

- ・その子へあった支援を探り関わっていく。
- ・その子にあった接し方、対応をその都度考え実践していけるようにする。
- ・気になる子は寄り添い、理解を深めるようにする。楽しみながら生活できるよう支援する。
- ・その子にあった指導や言葉かけをし、良いところを伸ばしていく。
- ・楽しく登園できること、周りの子ども達も相互作用で成長できるように心がける。
- ・笑顔で迎、安心できるように接する。
- ・遠いところからでも必ず目が届くようにする。長い時間をかけてその都度指導を繰り返していく。全体でみていくようにする。
- ・園全体で共通理解をし、家庭とも連携を密にすることが大切である。
- ・助言の仕方や、時間配分など様々な面で注意し励ましながら進めていく。
- ・努力をしてみんなに追いつくようにするより、その子が楽しめるような環境を作ってあげるようにする。
- ・その子の個性や発達状況をよく理解し園での様子を保護者に伝え、保護者からは家庭での様子を聞いて、どのような保育をしていけばいいのかを考えながら進めていく。